(五)撫順及烟台炭鑛問題

撫順炭鑛ノ地域ハ渾河ヲ以テ南北ニ分レ其ノ河南ノ部ハ更ニ渾河ノ支流タル楊柏堡河ヲ以テ東西ニ分ル其ノ区域大要左ノ如シ

河南 ｛河西—李石寨、大小甄屯、古城子、千金寨
　　 ｛河東—楊柏堡、老虎台、邁達屋

河北—白龍山、土口子、石門寨、驛馬站、栄盤、新屯嶺

右ニ対スル開採権ハ河西ハ李石寨ヲ除クノ外総テ華興利公司ニ属シ河東ハ撫順煤礦公司河北ハ濤務公司ニ属セリ抑撫順炭鉱附近ノ地ハ清朝ノ霊地ニシテ西ニ福陵アリ東ニ永陵アリ祖宗ノ栄域ニ属スルヲ以テ古来厳ニ封禁シテ開採ヲ許スコトナカリシモノノ如シ然ルニ義和団ノ変乱ニ乗シ露国カ満洲ヲ侵略シ鉄道ヲ敷設シ沿線

REEL No. 1-0003
0498
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

附近ニ炭鉱ノ必要ヲ感スルニ至ルヤ頻リ
ニ撫順ノ開掘ヲ謀ミタルモ古来封禁山ノ事
情アルヲ以テ容易ニ開掘スルヲ得サリシ
カ百方手段ヲ尽シ遂ニ王承堯及翁壽ノ
名義ヲ以テ各銀一万両ヲ政府ニ報効シ河
南ノ開掘権ヲ得楊柏堡河東ハ翁壽、河
西ハ王承堯ノ名義ヲ以テ始メテ採掘ニ着
手スルニ至レリ河西ノ創業者王承堯ハ種

外務省

々事業上ノ失費ノ為当初ノ資金漸ク欠
乏ヲ告クルニ至リシヨリ露清銀行ハ此機ヲ
利用シ三六万両ノ出資ヲナシ露清合同
ノ事業トナシ華俄利煤礦公司ノ名義ヲ
以テ河西ノ事業ヲ継続セリハ翁壽ノ採掘ニ
係ル河東炭鉱ハ開坑ノ当初位置ノ選
定其ノ当ヲ得サリシ為出炭ヲ見サル等
ノ事情アリテ創業ニ蹉跌ヲ生シ遂ニ己ノ

外務省

REEL No. 1-0003
0499
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

権利ヲ受ケテ紀鳳臺（帰化露国人）ニ売却（露国御用商人「ルビノフ」ナル者ニ関係セリト傳フ）スルニ至レリ然ルニ紀鳳臺ハ更ニ採掘ヲ試ミ其ノ結果炭鉱ノ前途大ニ有望ナルモノアルヲ発見スルニ至リタルヲ以テ人ヲ楊柏堡ニ派遣シ同時ニ露人ノ役員モ来リ撫順煤鉱公司ノ名ヲ以テ盛ニ採掘ニ従事シ漸次其ノ事業ヲ拡張セリ

外務省

烟臺炭鉱ハ烟臺停車場ノ東方約三十清里ニアリ南北十清里ニ亘リ従来清国政府ヨリ清国人ニ下附シタル採掘許可証ニ依リ左ノ八鉱区ニ分タル

一 碏牌山
二 北四家講（張家口）
三 楚盛保（尖山子）
四 大窪

外務省

REEL No. 1-0003
0500
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

五　山茨児山

六　南茨児山（盧家屯）大楡樹

七　鏵子嶺

八　老虎嶺

右ノ内一乃至五鉱区ハ東清鉄道会社ニテ之ヲ買収シ他ノ三鉱区ハ当買収未済ナリシ処日露戦役ノ際我軍同所ヲ占領シタルヨリ全部我軍ニ於テ採掘シ平和克復後ニ至リテ一時其ノ

採掘ヲ中止シ居タリ

撫順及烟台炭鉱ニ関スル従来ノ交渉成行ハ大体左ノ如シ

（イ）旅順河西炭鉱ハ明治三十九年清国外務部ヨリ在清公使ニ対シ清商王承堯ノ経営セル華興利煤礦公司ハ露国人ノ経営ニ係ル撫順公司トハ何等ノ関係ナク光緒三十一年二月其ノ旨日本軍憲ニ声明シ置キタルニ拘

ラス該公司ノ作業ハ禁止セラレ日本人ノ山田
ナルモノヲ上ニ擁シテ窃ニ作業シ居ルニ付テハ
満洲ニ関スル日清条約第四条ノ規定ニ基ツキ速
ニ右炭鉱ヲ交還スル様取計ハレ度旨照会
アリ依テ帝国政府ハ八月十日ヲ以テ在清公使ニ訓
令スルニ該炭鉱ハ明治三十七年以来露国人
ノ経営ニ属シ専ラ東清鉄道ノ利益ノ為ニ
採掘セラレ居タルモノニシテ従テ日露講和条

外務省

約第六条ニ所謂鉄道ノ利益ノ為ニ経営
セラレタル炭鉱トシテ当然帝国政府ノ有ニ帰
シタルモノナル趣ヲ清国政府ニ照覆スヘキ旨ヲ
シ且該炭鉱ニ関スル清国人ノ権利ハ結局全
然之ヲ無視スルコト能ハサルヤモ難計ニ付キ其ノ
節ハ別ニ方法ヲ設ケ其ノ要求ヲ満足セシ
ムルノ外策モアルヘケレトモ右ハ清国政府トノ
交渉ノ成行ニ依リ更ニ詮議ヲ遂ケラルヘキコトトシ

外務省

REEL No. 1-0003
0502
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

急ニ通一応右記ノ趣旨ニ依リ回答スヘキコトヲ
附言セリ
越ニ同年十月ニ至リ奉天将軍モ亦公ラヲ
以テ千山台（撫順）炭鉱ヲ華員劉公司名
義ノ下ニ往年将軍ノ許可ヲ得テ業務ヲ
開始シタルモノニシテ同公司ニ対シテハ露清銀
行ノ持株アリト云フ事實露清共同ノ事
業ニ非サルヲ以テ満洲ニ関スル日清協約

外務省

ノ規定ニ據リ還附ヲ要スヘキ筈ナリ本件ハ
現ニ北京ニ於テ交渉中ナルモ不取敢一時ノ便
法トシテ該炭鉱占拠ノ日本軍隊及人民ノ行
動ヲ停止セシメラレ度在奉天総領事ニ御
来リ依テ帝国政府ハ右記在清ヘノ訓令
ト同一ノ趣旨ヲ以テ奉天将軍ニ照覆セシメ
採掘停止ノ義ハ到底清国官憲ノ希望ニ
応スルコト能ハサル旨回答セシメタリ

外務省

REEL No. 1-0003
0503
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

是ノ同年十月中旬僅々奉天将軍ヨリ在奉天総領事ニ対シ牛心台炭鉱ハ王承堯ノ権利ニ属シ居リタル確的ノ証拠アリ但同炭鉱ハ南満洲鉄道ノ両側三十清里外ニ在リテ東清鉄道会社カ条約上営業ヲ採掘シ得ヘキ区域外ニ在ル旨ヲ照会シ来リ當省外務部ヨリモ在清公使ニ対シ同様ノ交渉ヲ為シ来レリ然レトモ三十清里主義ナルモノハ

外務省

曽テ露清間ノ合意ニ依テ確認セラレタル形跡ナク在奉天総領事カ同地将軍衙ニ就キ取調ヘタル所ニ拠レハ黒龍吉林両省ニ関シテハ露清間ニ調印シタル協定アル趣ナルモ奉天省ニ関シテハ何等協定ノ成立シ確証ナキヲ以テ右記抗議ニ対シテモ我ハ依然当初ノ主張通リ炭鉱ニ関スル我権利ヲ主張シ三十清里主義ナルモノハ我ノ承認スル所ニ非サ

外務省

REEL No. 1-0003
0504
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ル趣ヲ述ヘ清国政府ノ要求ヲ峻拒スヘキ旨
翌四十年二月初旬ヲ以テ在清公使及在奉
天総領事ヘ電訓アリ
然ルニ五月中旬ニ至リ在本邦清国公使ハ外
務大臣ヲ来訪シ本国政府ノ訓令ナリトテ
撫順炭鉱ハ前年王承尭ニ採掘ノ特許ヲ
与ヘタルモノニシテ同人ハ已ニ十万両ノ投資ヲ
為シタル次第ナルヲ以テ同炭鉱ヲ南満洲

外務省

鉄道ニ与フルハ清国政府ノ承認シ能ハサル所
ナル旨ヲ述ヘタルニ依リ外務大臣ハ之ニ対シ撫順
炭鉱ハ条約ニ依リ当然我ニ帰属シタルモノナ
ルモ王ニシテ事実巨費ヲ投シ居ル儀ナレハ
其情状ヲ酌ミ救恤的ニ多少ノ金額ヲ給
与スルコト絶対ニ出来難キニモ非サルヘシト答
ヘタルカ当時王ハ奉天ニ在リタルヲ以テ本
人ヨリ直接南満洲鉄道総裁ニ相談スル方

外務省

REEL No. 1-0003
0505
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

右ノ趣旨ヲ同公使ニ告ケ同時ニ右ノ次第ヲ總裁ニ通報シ置キシモ双方遂ニ意見ノ達ニ至ラサリキ

越テ翌年六月初旬ニ至リ露國外務省ハ在露大使ニ公文ヲ致シテ撫順煤田華興利公司株券ノ一部ハ露清銀行ノ所有ニ係レリ然ルニ右ノ變更ニ依レハ該炭鑛ハ日本政府ノ財産トシテ南滿洲鐵道ニ移轉セ

外務省

P.V.M. 2

2230

208

ラレタルモノナルカ頃日ノ情報ニ徴スルニ同公使ノ代表者王某ハ該炭鑛ノ下戻方ハ要償ヲ日清兩國政府ニ求メツツアルカ如シ就テハ日本政府ニ於テ本件ヲ處分セラルル際ニハ必ス露清銀行ノ利害ヲ考慮セラレ且該公司ノ要求ニ應セラルルニ先チ在東京露國大使館ノ意見ヲ徴セラレムコトヲ希望ス該炭鑛ヲ日本政府ノ所有ナリト決セラレタル

外務省

P.V.M. 2

2231

207

REEL No. 1-0003
0506
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

理論上ノ問題ハ暫ク措キ露國政府ハ日本政府カ露國清銀行ニ与ヘラルヘキ回答ヲ聞カムコトヲ欲スル旨述ヘタルヲ以テ帝國政府ハ該炭鑛ニ關シテハ清國政府ヨリ屢次還附ノ請求ヲ提出シ来リシモ元来同炭鑛ハ當初何人ニ許可セラレタルモノナルヤニ拘ラス其ノ後ニ至リ事實上露國ノ掌握ニ帰シ東清鐵道ノ利益ノ為経営セラレタルハ顕著ナル事實

外務省

ナルヲ以テ帝國政府ハ日露講和條約及満洲ニ関スル日清協約ニ據リ完全ニ帝國政府ノ有ニ帰シタルモノト認メ之ヲ南満洲鐵道ニ対スル出資ノ一部ト為シタルモノナリ右ノ趣ハ既ニ清國政府ニモ之ヲ通知シ其ノ還附ニ関スル請求モ断然之ヲ拒絶シタル次第ニシテ帝國政府ハ露清銀行又ハ其承繼者等ニ対シ何等損害ノ賠償等ヲ為スヘキ筋合ニ非サルハ勿論ナリト認ムル旨露

外務省

REEL No. 1-0003
0507
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

國政府ヘ回答スヘキ旨同大使ニ電訓セリ

（二）撫順同東炭鑛　　撫順炭鉱

中楊柏堡河ノ東部ニ位セル鑛区ハ前記ノ如ク撫順煤鑛公司ノ經營ニ係ルモノナルカ明治三十九年九月中右炭鑛權利者タル露國人「ルビノフ」ヨリ該炭鑛ハ全然私的財産ナルカ故ニ速ニ還附アリタキ旨関東州ニ於ケル我外國人私有財産整理委員長ニ対

外務省

シ申請シ来レリ依テ該委員會ニ於テハ種々審議ヲ遂ケタル末右申請ノ目的タル炭鑛ハ東清鐵道ノ利益ノ為ニ採掘セラレタルハ争フ可ラサル事實ニシテ「ポーツマス」條約第六條第一項並満洲ニ関スル日清條約第一条ニ基キ露清両國政府ノ合意ヲ以テ帝國政府ニ譲与セラレタルモノナルヲ以テ帝國政府ハ到底還附ノ請求ニ応スル能ハサル旨申請人ニ通達シ

外務省

タリ

(ハ)撫順炭税率ニ関シ交渉　撫順炭ノ輸出税率ニ就テハ四十一年四月中在牛荘領事館事務代理ヨリ清国海関税章ニ據レハ湖北、安徽、広西及開平炭ノ輸出税率ニ限リ一噸ニ付一「メーストル」トシ其他ハ壹ヲニシテ「メーストル」ト規定セルニ付テハ撫順炭ハ開平炭ト其ノ境遇及販路ヲ同フセルニ拘ラス現時之

外務省

ニ倍セル税率ヲ課セラレ居ルヲ以テ之ヲ改メテ開平炭ト同一ノ税率ヲ適用スル様清国当筋ニ交渉方在清公使ヘ稟請セラレシヲ以テ五月下旬同公使ハ右趣外務部ニ照会セラレシ処六月下旬ニ至リ同部ハ開平炭等ノ税額ハ之ヲ以テ他ニ援引シテ例ト為スヲ得ス且撫順炭鉱ハ清国ニ交還セラルヘキ件ニ付テハ更ニ別案トシテ弁理スヘキ旨回答セラレシカ同公使ニ於テハ炭鉱

外務省

REEL No. 1-0003
0509
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

還附問題ニ付テハ最早論スルノ要ナシトナシ此点ニ付テハ何等論及セス只輸出税率ニ關シテハ依然當初ノ主張ヲ維持シテ交渉ヲ継續シツツアリシモ清國政府ハ飽迄炭鉱還附論ヲ楯トシ断然減税ノ要求ヲ拒絶シタリ

(二) 煙台炭鑛

煙台炭鉱ニ関シテハ明治三十九年七月山座政務局長満洲ニ出張シ奉天将軍ニ對シ東清鐵道買收當時

外務省

ノ三鉱区ヲ採掘セムトスル計畫アルコトヲ含ミ其ノ内萬家屯ノ如キハ炭鉱中最有望ナルモノナルヲ以テ清國地方官ニ於テ採掘ニ着手セサルニ先チ至急守備兵ヲ派シ右鉱区ノ内最価値アル尾明山ヲ除キ其ノ他ノ鉱区ヲ占有シ清國人ノ擅ニ採掘スルヲ禁止シ追テ東清鐵道續約第四条ニ依リ従テ我ニ於テ経営スルモノナルコトヲ清國政府ニ通

外務省

REEL No. 1-0003
0510
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

当方面ニ於テ右審議ノ必要アリタルヲ以テ
先ノ筋ト協議ノ上不取敢憲兵ヲ派遣シ
炭鉱ヲ占有シ清国人ノ私掘ハ総テ之ヲ禁
止セシメ尚同月二十二日奉天将軍ヨリ在奉天
総領事ニ対シ我憲兵ノ行動ニ対シ説明
ヲ求メ且芦家屯張家口及尾明山炭鉱ハ
明治二十八年十一月中我軍憲ニ於テ其ノ
採掘ヲ清国人ニ許可セラレタルモノナル旨申出

テタルヲ以テ同月廿五日帝国政府ハ同総領
事ヲシテ同炭鉱ニ関スル我権利ヲ主張シ
同時ニ既ニ我陸軍官憲ニ於テ清国住民採
掘ヲ許シタル以上其ノ許可セル素ヨリ正当ノ
手續ヲ経タルモノニアラスト雖採掘者ノ事情
承認スヘキモノアルヲ以テ芦家屯ヲ除キ
他ノ二箇所ハ当分従来ノ如ク採掘ヲ許容スル
コトト為スヘキ旨将軍ニ回答セラレタル処将軍

REEL No. 1-0003
0511
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ於テモ之ニ満足シ我措置ニ対シ感謝ノ意ヲ表明セリ然ルニ同年八月清国政府ハ在清公使ニ対シ撫順炭鉱並撫順城外炭鉱ニ対スル抗議ヲ提出スト同時ニ烟台炭鉱ハ東清鉄道続約第八条ノ規定ニ拠リ我ニ於テ採掘スルモノナリトノ我主張ヲ反駁シ該続約第四条ハ鉄道沿線ノ石炭採掘ヲ会社ニ許可シ其附近ニ対シ他人ノ該地ニ採

外務省

掘スル石炭ニ対シ納付スル税額ニ超ユルヲ得ス
ト定メタルモノニシテ既ニ他人ノ該地ニ採炭スルヲ認メアルカ故本条ハ会社ニ独占権ヲ与ヘタルモノニアラス況ンヤ各坑ハ素ト鉄道ヨリ三十清里以外ニ在ルヲ以テ日本カ強力ヲ以テ之ヲ占領シ得ル権利ナキ旨照会スル所アリタルカ同公使ハ帝国政府ニ於テ能ク此等炭鉱ヲ手放サザラムトスル限リ個々ノ場合ニ清国ノ

外務省

REEL No. 1-0003

0512

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

抗議毎ニ一々之ニ弁明ヲ与フルハ徒ラニ紛ヲ重
ヌルノミニシテ何等ノ益ナキヲ以テ今回抗議
ニ対シテハ暫ク之ヲ打捨テ置キ追テ商議ノ時
期ニ於テ一併異議ヲ発シ我権利ヲ主張スルヲ得
ル事ト認メ政府ノ同意ヲ得テ右ノ抗議ニ対シ
テハ何等照覆スルニ至ラサリキ
尋テ三十九年十二月清国政府ハ復タ事情
鉄道買收未済ノ三鉱区ニ関シ抗議ヲ

外務省

繰返シ右ハ鉄道附属炭鉱ニ混入スヘカラサ
ルニ付速ニ鉱区ノ劃定ヲ行ヒ度旨在清公使
ヘ申出テシ為メ同公使ヨリ請訓ノ次第アリ
タルヲ以テ帝国政府ハ翌四十年三月初旬
ヲ以テ同公使ニ回訓スルニ露国ガ従前東清
鉄道ノ利益ノ為メ採掘セル炭鉱ハ其ノ当
初鉄道附属ノモノタリシト否トニ拘ラス「ポー
ツマス」条約及満洲ニ関スル日清条約ニ依

外務省

REEL No. 1-0003
0513
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

リ正當ニ我ニ帰属スルモノナリ如クシニ
ト情實主義ナルモノハ我ノ承認スル處ニ
非サルノミナラス明治三十七年十月日本人有
馬鑑ニ於テ荒見山ノ採掘権者王振綱ト
談鉱区相借並採掘ノ契約ヲ結ヒ居ル事
實アリ之ヲ以テ清國ノ要求ハ之ニ応シ得サル
旨ヲ言明シ且之ヲ以テ撫順及本件ニ関ス
スル我最後ノ回答トシ此ノ上再考ノ余地無

キ旨附加スルモ差支ナキ旨ヲ以テシタルカ同公
使ハ十二月十日右趣旨ヲ以テ清國政府ニ回答
セリ
此ノ如ク撫順及煙台炭鉱ニ関スル日清ノ交渉ハ
約二箇年ニ亘リテ尚解決ノ運ニ至ラサリシ久
明治四十一年九月対清懸案解決ニ関スル帝
國政府ノ方針ヲ定メ撫順及煙台炭鉱ニ関ス
ル我権利ハ同ポーツマス條約並北京條約ニ拠リ

REEL No. 1-0003
0514
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ確立シタルモノアリト雖此等炭鉱ハ素ト清
國領土内ニ存在スルモノナルヲ以テ特ニ清國ノ主權
ヲ認メ炭鉱ノ利益ヲ清國ニ分与スルノ方法ヲ
採ルトキハ清國官民ノ好感ヲ買ヒ今後ノ経営
上諸般ノ便利ヲ収ムルヲ得ヘク殊ニ東清鉄道
續約ニ於テ露國ハ清國ニ対シ一定ノ納金ヲ為スヘ
約セル次第ナルヲ以テ我ニ於テモ此際清國ニ対
シ一定ノ利益ヲ分与スヘキコトヲ約シ我経営上

ノ便宜ヲ図ルト同時ニ清國ヲシテ間接ニ我権
利ヲ確認セシムルノ必要ト認メ右ノ趣旨ヲ以テ
清國政府ト協商ヲ遂ケ同時ニ清國ニ対スル分
与金ニ関シテハ安奉鉄道沿線鉱山ニ関スル商
議ノ際奉天督撫ニ於テノ妥當ナリトシテ引用
シタル臨城炭鉱ノ税率ヲ以テ可成商議ノ
基礎ト為スヘク輸出税ニ関シテハ若干ノ金納
付ノ約成立スルニ至ラハ撫順及煙台炭ニ対シテモ同

REEL No. 1-0003
0515
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

平炭等ト同一ノ待遇ヲ与フルヲ至当ト認ムルヲ以テ右ハ合弁ノ議定ト同時ニ該炭輸出設備ノ目的ヲ達スルヲ要スル旨新任伊集院在清公使ニ訓令セリ

是ニ於テ在清公使ハ十一月廿八日第一回ノ会議ニ於テ以上ノ趣旨ヲ陳述シタルニ清国委員ハ撫順炭鉱ハ日露戦争ノ後露国人ノ所有セシ権利ヲ買戻シテ全ク清国人ノ経営ニ帰セシ

外務省

メタルモノナル旨ヲ主張シタルヲ以テ在清公使ハ右ハ帝国政府ノ取調シタル事実ニ反スルノミナラス仮令清国ノ一個人カ多少ノ関係アリトスルモ該鉱山カ少クトモ鉄道ノ利益ノ為ニ経営セラレタルコト疑無キヲ以テ此点ニ乗シ我権利ヲ争ムトノ趣意ナルハ到底同意シ難シ但シ規則等ヲ協定シテ以テ清国ノ主権ヲ尊重シ且利益ヲ分ツノ趣旨ヲ明ニスルハ異議ナシト述ヘ先方ノ考量ヲ求メタル

外務省

REEL No. 1-0003
0516
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

り然ルニ清国委員ハ更ニ本件ヲ安奉鉄道沿
線鉱山問題ト一併奉天ニ於テ商議セムコトヲ提
議セルヲ以テ在清公使ハ撫順及煙台ハ他ノ鉱山
ト同視スヘキニアラス清国ニシテ本件ニ関シ先ツ我
主張ヲ認メテ協定ヲ為シタル上ナラハ南満洲鉄道
沿線ノ他ノ鉱山ハ清国ノ希望アルニ於テハ政府
ニ請訓ノ上安奉鉄道沿線鉱山ト一括奉天ニ
移スモ可ナル旨ヲ答ヘ政府ニ対シテハ[illegible]

撫順及煙台問題モ安奉鉄道沿線鉱山ト同様
奉天ニテ商議スル方式ハ得策ナラスヤトモ思ハル
ルニ付何分ノ回訓アル様申出タルヲ以テ政府ニ於テハ
之カ裁量ヲ在清公使ニ一任セリ
四十二年一月十日（第二回）ノ会議ニ於テ清国
委員ハ新任外務部尚書梁敦彦ノ[illegible]
ノ関係ヲ挙ケ我根本ノ主張ヲ認メサルヲ以テ
在清公使ハ日露媾和条約及満洲ニ関スル日清

REEL No. 1-0003
0517
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

条約ヲ引キ反覆主張ヲ説明シ到底讓歩ノ餘
地ナキヲ諭シ結局清國委員ニ於テ更ニ条約
ヲ研究シテ商議スルコトトナレルカ一月十五日当時
上京中ナル奉天交渉使陶太均公然トナク在清公
使ヲ訪問シ満洲問題ニ関シ自家ノ意見トシテ談
話ヲ試ミ撫順及烟台炭鉱ハ日清合弁トシテ経
営スルコトトシ安奉吉長ニテ代ルヲ以テ在清公使ハ全
然之ヲ拒絶シ満洲ニ関スル日清条約ノ規定ヲ指

摘シ清國カ今更我権利ヲ動カサムトスルカ如キハ到底
無効ナリト説明シ彼カ生業競ノ関係ヲ云々
スルニ対シ在清公使ハ其ノ場限リノ談話トシテ
其ノ出資額ヲ参酌シ幾分ノ救恤金ヲ与フルカ
或ハ之ニ相当スル南満洲鉄道ノ株券ヲ分ツコト
ニ至リ様其ノ筋ニ対シ尽力スルヲ辞セサルヲ
以テ清國ニ於テ此ノ際全然其ノ異議ヲ撤
回シ速ニ本件ヲ解決スル様陶ニ於テ尽力スルコト

両事ハ右得策ナリト慫慂シ更ニ廿七日会議ノ
席上清国委員ハ尚牛荘ノ関係ヲ云々シテ
止マサルヲ以テ在清公使ハ其ニ対シテハ救恤ノ趣
旨ヲ以テ相当ノ途ヲ立ツヘキ様尽力スヘキ旨言
明シタルニ清国委員ハ右個人ノ異議消滅セハ
清国政府ニ於テモ何トカ協定ノ途アルヘキニ付南
満洲鉄道ト其ト奉天ニテ商議スル様致度
ト申出タリ依テ在清公使ハ清国ニテ先ツ炭鉱

ニ関スル我権利ヲ認メタル上ニテ右ノ如ク取計
フヘシト述ヘタルニ清国委員ハ責任ヲ顧慮
シテ決セス遂ニ何等確定[illegible]ルニ至ラス
二月二日第四回会議ニ於テ清国委員ハ更ニ北
京会議録第十号中奉天省内ノ鉱山ハ既開
未開ニ論ナク将来詳細ノ章程ヲ取極ムヘシト
アルヲ引用シ之ヲ撫順及煙台炭鉱ニ適用セムコ
トヲ主張シタルヲ以テ在清公使ハ之ヲ反駁シ清

REEL No. 1-0003
0519
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

亦ハ既ニ日清条約ノ明文ヲ以テ日露媾和条約ヲ承認シタル以上ハ会議録ノ記載ハ須ラク此ノ明文ト矛盾セサル範囲内ニ於テ解釈スヘク会議録ヲ以テ条約ノ明文ヲ覆サムトスルカ如キ主意ニ解セムトスルハ断シテ不合理ナリトテ清国委員ノ提議ヲ拒絶セリ

越テ一月六日在清公使ハ他ノ諸懸案ト共ニ本件ニ関スル帝国政府予テノ主張ヲ覚書トシテ

外務省

清国政府ニ提出シタルカ同月十七日第六回会議ニ於テ清国委員ハ改メテ日清会弁説ヲ主張セルヲ以テ公使ハ我権利ノ到底動カスヘキ余地無キコトヲ反覆シ彼ノ考量ヲ求メタリ然ルニ三月二十二日ニ至リ清国政府ハ突然覚書ヲ提出シテ全然我提議ヲ拒絶スルト同時ニ懸案全部ヲ仲裁裁判ニ附セムコトヲ提議シタルモ其ノ後談判再開ニ至リ八月十六日清国委員ハ間島問題ニ関シ

外務省

REEL No. 1-0003
0520
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ彼ニ満足ナル落着ヲ見ルニ於テハ撫順及烟台
問題ハ全然ヲ日本ニ讓歩スヘク且ニ對スル給付
金ハ當人ノ本省額以上ニ見積リ寛大ニ与ヘラルル
シトノ希望ヲ表白セリ然ルニ次テ八月二十日ノ
會議ニ於テ清國委員ハ右言明ニ反シ(一)清國
ハ自系竟ノ権利ニ屬スル炭鑛ヲ日本ニ讓与シ
日本ハ同人ニ損害賠償ヲ為スコト(二)炭鑛所
在地ノ行政権ハ全然清國ニ屬スルコト(三)採掘區

外務省

域ハ且ヨリ最初出願シタル地域ヲ超エサルコト
(四)徴税方法及採掘年限等ハ別ニ協定スルコ
トヲ提議シ最モ執拗ニ行政権問題ヲ固持シタル
趣ヲ以テ在清公使ヨリ之カ協定方ニ關シ請
訓ノ次第アリタルヲ以テ政府ハ廿三日撫順炭鑛
ノ件ニ關シテハ我方ニ於テ能近當初ノ主張ヲ
貫徹セムコトヲ希望シ間島問題ニ乘シ韓人裁
判権ヲ清國ニ讓ラムトスルカ如キ清國ヲシテ本

外務省

REEL No. 1-0003
0521
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

件ニ関スル我主張ヲ認メシムルコト其ノ重ナル動機ノ一ナリ然ルニ清国カ間島問題ニ付譲歩ヲ要スル上ハ其ノ他ノ問題ニ付十分我要求ヲ容ルヘキコトハ同政府カ累次声明セル所ニシテ最近ニ至リ清国委員カ最モ正確ニ言明セル所ナルニ拘ラス韓人裁判権ノ点ニ乗シ其ノ目的ヲ達セムトスルニ及ヒ全然従来ノ声明ヲ無視シ根本ニ於テ我主張ト相容レサル提案ヲナスカ

外務省

如キハ甚タ意外トスル所ナルヲ以テ飽迄当初ノ主張ヲ維持シ右主張ノ根本主義ニシテ清国政府ノ是認スル処トナラサル以上ハ韓人裁判権問題ニ対スル譲歩ハ之ヲ撤回スルノ止ムヲ得サルニ至ルヘキ趣ヲ説明シ反省ヲ促スヘキ旨ヲ電訓シタルニ翌日ノ会議ニ於テ在清公使ハ右ノ要旨ヲ反覆シテ清国委員ノ反省ヲ求メ同時ニ右ノ覚書ヲ提示シ之ヲ基礎トシテ本件ノ商議ヲ進行セシメ

外務省

REEL No. 1-0003

0522

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

キリ
一、清国ハ日本国カ日露講和条約第六条並満洲ニ関スル日清条約第一条ニ拠リ正当ニ撫順及烟台炭鑛ノ採掘権ヲ有スルコトヲ承認ス

二、日本国ハ該両炭鉱ノ採炭ニ対シ一定ノ税金ヲ清国政府ニ納入スルコトヲ承諾ス右税金ノ高ハ他ノ地方ノ石炭ニ対スル

外務省

最恵税率ヲ標準トシ別ニ両国ノ間ニ協定スヘキモノトス

三、清国ハ該炭鑛採炭ニ対シ他ノ炭鑛ノ採炭ニ対スル最恵ノ輸出税率ヲ適用スルコトヲ承諾ス

外務省

REEL No. 1-0003
0523
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

然ルニ先方ニ於テハ行政権問題ニ付尚ホ何等カノ留保ヲ為シ少ナクモ書面ニテ一種ノ声明ヲ為サムトスルノ意向ニテ第一項中「日露講和条約云々」ニ異議ヲ唱ヘタル外種々ノ弁難ヲ構ヘ長時間ニ亘リテ討議シタル結果行政権問題ニ付此際具体的ノ留保ヲ設クルハ到底我ノ同意セサル処ナルコトヲ説得シ結局字句ノ修正ヲ申出テ第二項

外務省

ニ「日本国ハ清国ノ一切ノ主権ヲ尊重シ」ナル一句ヲ加ヘ別ニ「開鉱一切ノ章程ハ両国ヨリ別ニ委員ヲ派シ協定スヘシ」ノ一項ヲ附加セムコトヲ提議シタル処帝国政府ニ於テハ清国ヲシテ我正当ナル採掘権ヲ承認セシムルノ趣旨明白トナル限リ字句ニ付テハ強テ重キヲ措カサル次第ナルヲ以テ結局先方ノ提議ヲ容レ八月廿六日ノ会議ニ於テ左ノ条項ヲ協定

外務省

REEL No. 1-0003
0524
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

スルニ至レリ

撫順烟臺両炭鉱ニ関シ日清両国政府ハ和平ニ商定スルコト左ノ如シ

一 清国政府ハ日本国政府カ上記ノ両炭鉱採掘権ヲ有スルコトヲ承認ス

二 日本国政府ハ清国ノ一切ノ主権ヲ尊重シ該両炭鉱ニ対シ税金ヲ清国政府ニ納入スルコトヲ承認ス右ノ税金

外務省

ハ清国他地方ノ石炭ニ対スル最恵ノ税率ヲ標準トシ別ニ両国ノ間ニ協定スルモノトス

三 清国ハ該炭鉱採掘ニ対シ他ノ炭鉱ノ採炭ニ対スル最恵ノ輸出税率ヲ適用スルコトヲ承認ス

四 地域並一切ノ細則ハ別ニ員ヲ派シテ協定ス

外務省

REEL No. 1-0003
0525
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

同時ニ王承堯ニ対スル救恤金ニ関シテハ協約以外ニ公文ヲ以テ取極ムルコトトナリ該公文案ハ左ノ通リ之ヲ協定セリ

日本国政府ハ当初撫順炭鉱ニ関係アリタル清国人王承堯ニ銀若干ヲ給付ス其ノ金額ハ同人ノ出資高ヲ按シ優ニ従テ協商酌給ス

越テ九月一日懸案全部ノ協定ヲ了シ次テ

協約第三條ノ規定ヲ見ルニ至レリ

REEL No. 1-0003
0526
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/